

# 名古屋鉄道株式会社

サステナビリティファイナンス・フレームワーク

2021年11月

## 1. はじめに

名古屋鉄道株式会社（以下「当社」）では、「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」という使命のもと、「豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される『信頼のトップブランド』をめざします」という経営理念を掲げております。

こうした使命と経営理念のもと、2018年3月に名鉄グループ長期ビジョン「VISION2030～未来への挑戦～」を策定し、地域と共に生きる企業として、モビリティの提供やまちづくりを通じた新たな魅力や価値を創造し続けるとともに、変化する社会のニーズを積極的に取込み、新たなライフスタイル・豊かな生活の実現をサポートすることで、持続的な成長を目指しております。

また、当社グループは大量輸送手段としてエネルギー効率が良く、環境に優しいといわれる鉄道・バスを主体に事業展開する中で、事業活動自体に伴う環境負荷をしっかりと認識し、その負荷軽減に努めるべく、1998年4月に環境方針「名鉄エコ・ビジョン」を策定し、地道に継続的に環境活動を行ってきました。2006年4月には、当社グループ一体となった環境活動を推進するため、「名鉄グループ エコ・ビジョン」を新たに策定し、推進体制の再構築を行いました。

2021年9月には「名鉄グループ サステナビリティ基本方針」を策定し、「地域を活性化する事業+社会を支える事業」の推進により、「持続可能な社会の実現」を目指すことを宣言しています。

この度、こうした当社の取り組み推進のため、サステナビリティファイナンスによる資金調達を行うべく、サステナビリティファイナンス・フレームワーク（以下「本フレームワーク」）を策定致しました。

## 2. 名鉄グループの経営ビジョンと長期ビジョン

当社は、2005年12月に策定した経営ビジョンの中で、当社の使命、経営理念、経営方針を定めております。

当社の使命は、「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」ことです。この使命のもと、豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される「信頼のトップブランド」を目指す経営理念に従い、経営方針を定めております。

また、2018年3月には、人口減少・少子高齢化の加速、技術革新の進展といった大きな変化が予想される環境下においても持続的な成長を目指すため、長期ビジョンおよび長期経営戦略を策定致しました。



<名鉄グループ長期ビジョン「VISION2030～未来への挑戦～」>

- 当社グループは、地域と共に生きる企業として、モビリティの提供やまちづくりを通じて、新たな魅力や価値を創造し続ける企業グループとなります。
- 変化する社会のニーズを積極的に取込み、新たなライフスタイル・豊かな生活の実現をサポートすることにより、持続的な成長を図ります。

<長期経営戦略>

- 日本一住みやすいまち、訪れたいエリアを創り上げ、定住人口と交流人口の拡大を図ります。
- 積極的な投資や新たなビジネス領域への果敢なチャレンジにより、収益力の向上を図ります。
- 人口減少、少子高齢社会においても持続的に成長するために、先端技術の活用などによる生産性の向上やイノベーションの創出に積極的に取り組みます。

### 3. 中期経営計画「Turn-Over2023～反転攻勢に向けて～」

こうした経営ビジョン、長期ビジョンに基づいた具体的な計画として、当社は2021年3月、中期経営計画「Turn-Over2023～反転攻勢に向けて～」を策定致しました。この中期経営計画は、当社グループが魅力ある地域づくりに対して大きな責任を担っている企業集団であるという認識のもと、新型コロナウイルスの感染拡大による厳しい社会経済情勢を乗り越え、永く地域社会に貢献する企業であり続けるために、変革・再生を成し遂げ、次の成長に繋げることを目指しています。

事業構造改革	<b>1 交通事業の構造改革</b> 当社グループの基盤である交通事業について、新たな生活様式の定着に伴って需要がコロナ前には完全に戻らないことを想定し、また、人口減少社会の到来を見据え、安全・安心を確保しつつ、公共交通サービスを安定的・持続的に提供するため、事業構造改革を行い、長期的な安定経営を実現する。
	<b>2 旅行事業・観光バス事業・ホテル事業の構造改革</b> 新型コロナウイルスの感染拡大により需要が低迷し、大きな影響を受けている旅行・観光バス・ホテル事業について、需要構造等の変化に対応して事業構造改革を行い、いずれ回復する国内レジャー・インバウンド需要に応え収益を生み出すことができるよう再生する。
成長基盤構築	<b>3 グループ一体となった沿線・地域の活性化</b> グループ一体となって沿線・地域を活性化するため、都心部、沿線拠点駅および駅周辺における開発事業をバランス良く展開するとともに、生活と観光の両面から事業活動を展開し、需要創出と保有資産の価値向上を図る。
	<b>4 名駅再開発の事業着手に向けたプロジェクトの推進</b> 名駅再開発の事業着手に向けて、コロナ後の事業環境の変化に対応して交通施設整備計画および再開発施設計画の見直しを行うとともに、再開発エリアの価値最大化に向けた取組みを推進する。
	<b>5 今後成長が見込まれる分野の収益力強化による収益構成の見直し</b> 交通事業が過半を占めている収益構成を見直すため、今後グループとして成長が見込まれる分野である不動産事業や運送・航空など競争力のある事業、マーケティングの強化・高付加価値化および新たな事業領域の開拓に重点的に取り組むことにより、鉄道以外の事業の収益力を強化する。
	<b>6 DXの推進</b> DXの推進により、お客さまへ新たなサービスを提供することを目的としたビジネスモデルの変革やコスト削減・業務高度化などを目的としたビジネス環境の変革を目指す。
	<b>7 経営課題に対応した体制づくり</b> 経営課題に対応した体制づくりを進めるとともに、様々な社会的要請に対応していくための取組みを行う。

#### 4. ESG への取り組み

当社グループは、地域社会の発展とグループの発展は不可分であるとの認識のもと、安全、安定輸送の確保を大前提としつつ、地球環境への負荷が少ない鉄道等の公共交通サービスの提供や、住みやすいまち、訪れたいエリアの創り上げを通じて、「持続可能な社会の実現」に真摯に向き合い続けてきました。引き続き当社グループの事業領域＝「地域を活性化する事業+社会を支える事業」の推進により、「持続可能な社会の実現」を目指すべく、2021年9月に「名鉄グループ サステナビリティ基本方針」を策定しました。

### <基本方針>

私たち名鉄グループは、「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」という使命のもと、地域を活性化し、また社会を支える事業活動を通じて、持続可能な社会の実現をめざします。

#### ● Environment（環境）

環境にやさしい企業活動をグループ経営戦略として活かし、社会的責任の完遂を進めていくため、2006年4月に環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」、2007年4月に「名鉄エコ・プラン」を策定しました。

#### 名鉄グループ エコ・ビジョン

##### <基本理念>

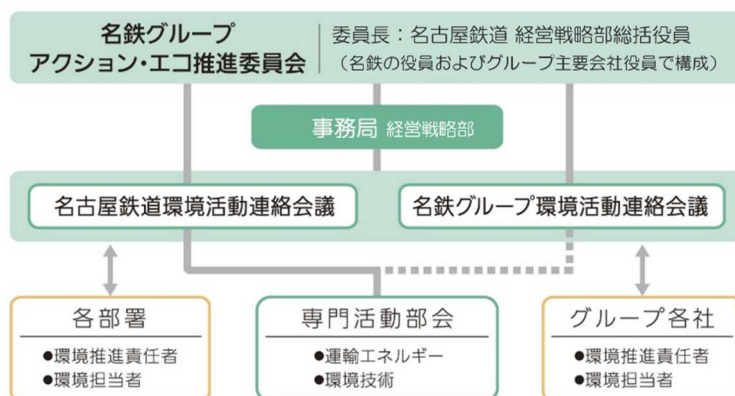
名鉄グループは、環境問題を地球規模で考え、地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業をめざします

#### 名鉄エコ・プラン（名古屋鉄道株式会社 環境方針）

##### <行動指針>

1. 環境負荷の軽減
2. 利便性の向上
3. 地域環境貢献
4. 環境法令の遵守

#### 推進体制図



#### ● Social（社会）

##### (1) 安全、安心の徹底

2006年10月に「鉄道安全管理規程」を定めるとともに、輸送の安全を確保するための基本的な方針「安全に関する基本方針」を策定して、鉄道事業に従事する全役職員が一丸となって安全管理体制の強化に向けた取り組みを行っています。

### <安全に関する基本方針>

会社一丸となって、安全・安心・安定輸送と快適なサービスを提供することにより、地域社会の発展に貢献していきます。

1. 事業の推進に当っては、安全の確保をすべてに優先させます。
2. 法令・規則を遵守し、高い倫理観を持って事業活動を行ないます。
3. 安全意識を高く持ち、社会の変化に対応した体制をつくります。
4. 事故が発生した場合は、一致協力してお客様の安全を第一に行動します。
5. 常に安全に関する知識・技能の習熟に努めます。

### (2) 地域社会の持続的な発展への貢献

当社は祖業である鉄道事業が「地域の重要な公共交通インフラ」であることから、地域に対して重い社会的責任を担っていると認識しています。そのような認識の下、地域社会の持続的な発展に貢献する以下のような活動を積み重ねています。

#### ➤ 日本文化・芸術の継承

貴重な明治の建造物を後世へと伝える「博物館明治村」の運営、1936年に国宝に指定された茶室如庵の移築、保存修理工事等を行っています。

#### ➤ 地域連携の強化・拡大

犬山キャンペーン：2007年から犬山市と連携して観光キャンペーンを実施し、宣伝活動や企画きっぷを発売することで、犬山への送客を推進しています。

名鉄のハイキング 電車沿線コース：当社駅を起点に沿線の魅力あふれる観光スポット、季節の花の名所や地元のお祭り会場などを歩いて巡るもので、地域の観光協会や地元企業などの協賛をえて、春・秋を中心に開催しています。

#### ➤ 子育て支援・高齢者を支える取り組み

めいてつ保育ステーション「ぽっぽ園」：働く子育て世帯をサポートする事業として、小規模保育事業を行っています。

リハビリ型デイサービス「名鉄レコードブック」：予防介護の視点に立ったシルバーフィットネス事業として、リハビリ型デイサービスを展開しています。

### ● Governance (企業統治)

当社グループが「名鉄グループ経営ビジョン」において定める使命を果たし、すべてのステークホルダーからの信頼を獲得するためには、コーポレート・ガバナンスの充実が重要な経営課題の一つと認識しています。具体的には、長期的視点に立って安定的な経営を維持するべく、意思決定、業務執行および監督、コンプライアンス、リスク管理、情報開示などについて適正な組織体制を整備し、経営の健全性や透明性、効率性を確保することを基本方針とし、その充実に努めています。

## 5. フレームワーク

当社は、以下の「調達資金の使途」で定める各プロジェクトへの充当を目的として、サステナビリティファイナンスによる資金調達を決定し、本フレームワークを策定しました。

本フレームワークは、国際資本市場協会（ICMA）の定める「サステナビリティボンド・ガイドライン（Sustainability Bond Guidelines）2021」、「グリーンボンド原則（Green Bond Principles）2021」、「ソーシャルボンド原則（Social Bond Principles）2021」、環境省の定める「グリーンボンドガイドライン（Green Bond Guidelines）2020」、金融庁の定める「ソーシャルボンドガイドライン（Social Bond Guidelines）2021」、ローンマーケットアソシエーション（LMA）及びアジア太平洋地域ローンマーケットアソシエーション（APLMA）の「グリーンローン原則（Green Loan Principles）2021」及び「ソーシャルローン原則（Social Loan Principles）2021」並びに環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン（Green Loan and Sustainability Linked Loan Guidelines）2020」に基づいて策定され、以下の4つの要素について定めています。

1. 調達資金の使途
2. プロジェクトの評価と選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

### 1. 調達資金の使途

サステナビリティファイナンスによって調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす事業の新規ファイナンス資金又はリファイナンス資金として充当する予定です。

なお、リファイナンス資金として資金充当するプロジェクトは、サステナビリティボンドの発行から3年以内のものに限定します。

#### ▶ グリーン適格プロジェクト

プロジェクト分類	適格プロジェクト
クリーン輸送に関する事業	①新型車両 9500 系・9100 系の導入
エネルギー効率に関する事業	②駅や保有施設の照明の LED 化

#### ▶ ソーシャル適格プロジェクト

プロジェクト分類	対象となる人々	適格プロジェクト
社会経済的向上とエンパワーメントに関する事業	地域の企業及び住民 国内外からの旅行者	③犬山エリアの観光活性化
社会経済的向上とエンパワーメントに関する事業	地域の企業及び住民 国内外からの旅行者	④エリア版 MaaS 開発



▶ 適格プロジェクトの詳細情報

① 新型車両 9500 系・9100 系の導入

9500 系、9100 系は、通勤車両である 3300 系、3150 系の後継車両であり、それぞれ 2019 年、2021 年にデビューしました。コンセプトは、「お客さまサービスのさらなる向上」「インバウンド対応の充実」「安全性の強化」「省エネルギー化の推進」です。高い信頼性に基づく最新のテクノロジーを積極的に取り入れ、省エネ機器として、VVVF インバーター制御装置に用いるパワー半導体にエ



ネルギー損失の低い炭化ケイ素 (SiC) を採用しています。また、主電動機に全閉外扇誘導電動機を採用し、エネルギー効率のさらなる向上を図っています。

本フレームワークによる調達資金は、当該車両の導入資金への充当を予定しております。

② 駅や保有施設の照明の LED 化

当社は、名鉄エコ・プランの行動指針のひとつに環境負荷の軽減を掲げ、具体的な取り組みとして保有施設の省エネ化を進めています。

本フレームワークによる調達資金は、駅や当社が保有する施設の照明の LED 化にかかる費用への充当を予定しております。

③ 犬山エリアの観光活性化

当社は、中期経営計画「Turn-Over 2023～反転攻勢に向けて～」において、「グループ一体となった沿線・地域の活性化」を重点テーマとして掲げ、具体策として「犬山エリアの観光活性化」に取り組んでいます。

犬山における当社の取り組みの歴史は古く、1925 年の犬山遊園地の開園、1926 年の犬山線全線開通まで遡ります。戦後の急速な経済成長の蔭で失われつつある明治時代の建築物のうち、歴史上にも文化芸術上にも価値があるものを末永く修復・保存するため、1962 年に財団法人明治村を設立し、1965 年に「博物館明治村」が開村しました。2012 年に公益財団法人明治村に移行しました。公益財団法人明治村は、国の重要文化財 11 件を含む 60 余の建造物や歴史資料を保存・展示しています。また、1936 年に国宝に指定された茶道文化史上貴重な遺構である茶室如庵を 1972 年に当社が現在の犬山城の東へ移築しました。2022 年 3 月の公開を目指して、2019 年 3 月より保存修理工事を行っています。くわえて、2007 年から犬山市と連携した観光キャンペーンを実施し、宣伝活動や企画きっぷの販売、城下町でのイベント実施により、犬山市への送客を推進しています。

犬山市では、2021 年度から 2023 年度にかけて、①市民主体のまちづくり活動の充実やインバウンドの増加に対応した交流拠点づくり②城下町地区の魅力向上による観光振興の継続的發展を目標とした、都市再生整備計画事業を実施しています。



当社はこうした犬山市の取り組みへの貢献も企図して、犬山エリアにおける地域体感型ホテルとして、ホテルミュースタイル犬山エクスペリエンスを2021年7月15日に開業致しました。そして、2022年3月1日には、IHG®ホテルズ&リゾーツと提携したホテルインディゴ犬山有楽苑を開業する予定です。犬山エリアがホテル開業を契機として日帰り型観光地から滞在型観光地となることを目指し、自治体や地域と共に魅力ある観光地づくりおよび受け入れ態勢の整備を行います。

本フレームワークによる調達資金は、犬山キャンペーン実施にかかる費用及び当該2つのホテル（国宝茶室如庵の保存修理工事含む）の建設資金への充当を予定しております。

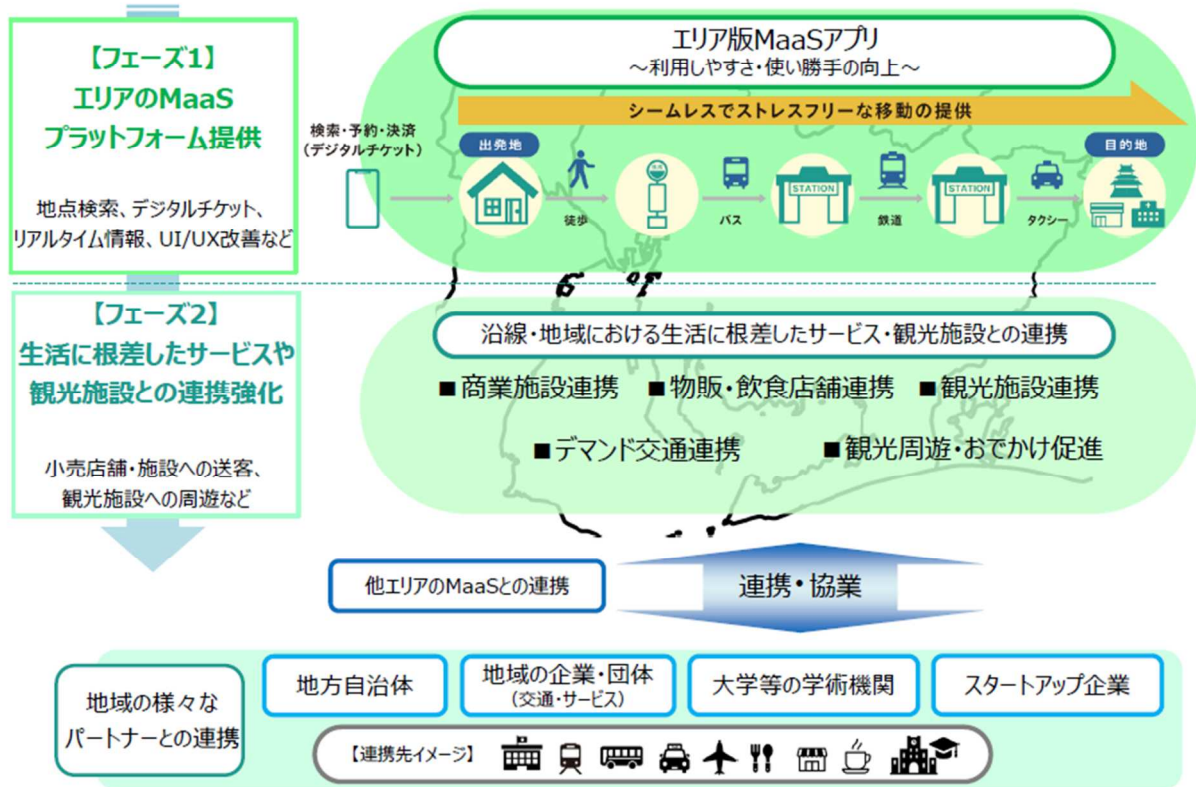
## 犬山エリアの観光活性化

マイクロツーリズム・国内旅行需要の取込みに向けて、新たな2つのホテルの開業を契機に、日帰り型観光地から滞在型観光地となることを目指し、自治体や地域と共に魅力ある観光地づくりおよび受け入れ態勢の整備を行う。

<p><b>ホテルインディゴ犬山有楽苑</b></p> <p>ハイクラスホテル (ライフスタイル・ブティックホテル)</p>  <p>イメージバース</p> <p>IHG®ホテルズ&amp;リゾーツと提携した、中部圏初のインディゴブランドのホテル</p> <p>【開業予定時期】2022年3月1日</p>	<p><b>ホテルミュースタイル 犬山エクスペリエンス</b></p> <p>地域体感型ホテル</p>  <p>イメージバース</p> <p>地域の歴史・文化についての興味深い体験や、大切な人と過ごす楽しいひと時を通して、その地域に深く入り込み体感できる、地域体感型ホテル</p> <p>【開業時期】2021年7月15日</p>	<p><b>具体的な取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 多様なメディアを用いたプロモーション</li> <li>▶ ホテル宿泊者限定特典を含めた旅行商品の販売</li> <li>▶ 犬山キャンペーンとの連携</li> <li>▶ イベント施策の検討</li> </ul> <p>&lt;犬山の観光資源&gt;</p>  <p>国宝犬山城      犬山祭      木曾川鶴飼</p>
--	--	---

### ④エリア版 MaaS 開発

当社は、地域の交通・生活・観光サービスを繋ぎ、シームレスでストレスフリーな移動の実現を目指すエリア版 MaaS 構想を推進します。その取り組みの一環として、2022年3月にエリア版 MaaS アプリの初期リリースを予定しています。出発地から目的地までのシームレスでストレスフリーな移動を提供し、お客さまの利用しやすさ・使い勝手の向上を図るだけでなく、地域の様々なパートナーとの連携強化を図り、地域の商業施設や物販・飲食店舗への送客促進、観光周遊促進、高齢者をはじめとした地域の皆様のおでかけ促進などの推進を目指します。将来的にはエリア全体の長期の価値向上を目指し、地域が抱える課題への対応や、新型輸送サービスとの連携、移動データの活用・連携を推進し、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。本フレームワークによる調達資金は、エリア版 MaaS アプリの開発資金への充当を予定しております。



## 2 プロジェクトの評価と選定プロセス

調達資金を充当する対象事業は、上記「1. 調達資金の使途」で定める適格クライテリアへの適合状況に基づき、経営戦略部の助言を受けながら財務部が選定し、財務部担当役員が最終承認を行います。

なお、当社では、資金使途の選定にあたり対象事業のすべてについて、環境・社会リスク低減のため、以下の項目について対応していることを確認しています。

- ・ 事業実施の所在地の国・地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- ・ 事業実施にあたり地域住民への十分な説明の実施
- ・ 上記の項目に関連し、各社の情報の共有化や取り組みの状況の評価・改善、法令改正情報の周知および内部環境監査を通じた環境法令の遵守徹底

## 3 調達資金の管理

本サステナビリティファイナンスにより調達した資金は、当社財務部が適格事業への充当状況を関連部署と共有したうえで管理します。また、当社財務部は、本サステナビリティファイナンスの調達額と同額が適格プロジェクトに充当されるよう、毎年内部会計システムを用いて追跡管理します。なお、未充当資金については、現金または現金同等物にて管理する予定です。

#### 4 レポーティング

適格事業への資金充当状況については、調達資金の全額が充当されるまでの間、また適格事業による環境・社会への効果（インパクトレポーティング）については、本サステナビリティファイナンスの残高がある限り、以下の指標に基づき、当社ウェブサイトにて年に一回、実務上可能な範囲で開示します。

なお、調達資金の充当計画に大きな変更が生じる等の重要な事象が生じた場合は、適時に開示します。

##### 【資金充当レポーティング】

- ・ 充当した資金の額
- ・ 未充当資金の額
- ・ リファイナンスに充当した概算額または割合

##### 【インパクト・レポーティング】

###### ▶ グリーン適格クライテリア

GBP のカテゴリー	適格プロジェクト	環境改善効果
クリーン輸送に関する事業	①新型車両 9500 系・9100 系の導入	下記指標のいずれかまたは全てを開示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資金使途となった車両の概要</li> <li>・ 資金使途となった車両の投入数</li> <li>・ CO2 排出量削減効果の推計値（従来車両比）</li> </ul>
エネルギー効率に関する事業	②駅や保有施設の照明の LED 化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資金使途となった LED 照明の設置数</li> <li>・ CO2 排出量削減効果の推計値（従来比）</li> </ul>

###### ▶ ソーシャル適格クライテリア

SBP のカテゴリー	適格プロジェクト	社会的効果
社会経済的向上とエンパワーメントに関する事業	③犬山エリアの観光活性化	<アウトプット> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犬山プロジェクトの概要</li> <li>・ ホテルの客室数</li> </ul> <アウトカム> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 犬山駅と犬山遊園駅の一日平均乗降人員の合算</li> <li>・ 国宝犬山城登閣者数</li> <li>・ 犬山市の年間観光入込客数</li> </ul>

		<p>(国宝犬山城登閣者数および犬山市の年間観光入込客数は犬山市が公表を行う限りにおいて開示します)</p> <p>&lt;インパクト&gt; 犬山市の観光都市としての価値向上</p>
社会経済的向上とエンパワーメントに関する事業	④エリア版 MaaS 開発	<p>&lt;アウトプット&gt; エリア版 MaaS の概要</p> <p>&lt;アウトカム&gt; ・アプリダウンロード数</p> <p>&lt;インパクト&gt; 生活に根差したサービス、観光施設との連携による沿線・地域の活性化</p>

以上